

カフェじゃない カフェ通信

③



〒680-1222 鳥取県鳥取市河原町夷田 740
mail ensoku.keikaku@gmail.com
tel 080-4269-7615
web http://ensoku-keikaku.org/
blog http://blog.canpan.info/ensokukeikaku/
twitter http://twitter.com/ensoku_keikaku
FB http://www.facebook.com/ensoku.keikaku
メンバーはすでに募集中です
面白そうと思ったらメールください

遠足 ensokukeikaku 計画

つどあん派か、こしあ
ん派か。きのこの山派
か、たけのこの里派か。
見極めてから話そう。

車行本：252 ページ
出版社：弘文堂 (2003/07)
ISBN-10：4335550901
ISBN-13：978-4335550904
発売日：2003/07
著者略歴（「BOOK 著者紹介情報」より）
辻 信一
文化人類学者、環境運動家。明治
学院大学国際学部教員。「スロー」
というコンセプトを軸に環境 = 文
化運動を進める。1999 年、NGO「子
アケモノ倶楽部」を設立、その世
話人を務める。「スロー」、「カフエ
スロー」、「スローウオーター・カ
フェ」、「ゆっくり堂」などの会社
設立に参画、環境共生型ビジネス
に取り組む他、数々の NP0 や NGO
にも参加している（本データはこ
の書籍が刊行された当時に掲載さ
れていました）

今ではすっかり定着したスローラ
イフという言葉。それを実践する
人、実践は難しくてもスローとい
う言葉を気にならなから生活する
人は多いはず。
この本は、タイトル通り、スロー
ライフに関係する 100 のワードの
説明がされています。「エコツーリ
ズム」、「がんばらない」、「身体時
間」、「フェアトレード」などなど。
最初から順番に読んで、気にな
るワードから読んで OK だと思っ
ます。
この本の発行は平成 15 年。
ちよろどスローライフという言葉
が話題になった頃ではないでしょ
うか。生産性や効率性を重視する
社会から、今、人の意識や社会が
どう変化したか、それを考えなが
ら読んでおもしろいかもしれませ
ん。（かめ）

スローライフ 100のキーワード 辻 信一さん著



Wanted

遠足計画では新事務所オープンにあたり、新事務所での場づくりと一緒に楽しんでくださる方を募集中です。具体的には以下のような方、ピンときたら、遠足計画まで。

⑥ 家の改装や、家具作りに興味のある方。

壁の塗り替えや床はり、配置・レイアウト等の空間デザイン、家具作り、看板作り、室内の飾り・・・などなど、ゆっくり進んでいる、新事務所の改装をいっしょに楽しみませんか？

⑥ トークイベントに興味のある方。

実は現在、新事務所の改装オープンイベントの準備中です。そのイベントの運営や、今後の本談義（本に纏わるゲストをお招きしてのトークイベント）の企画・運営と一緒に楽しんでくださる方も募集中です。いっしょにお話聴きませんか？

⑥ お茶を入れたり、料理をするのが好きな方。

そのトークイベントや今後、事務所で展開予定のカフェじゃないカフェでお茶を入れてくれる 1 日店長または 1 日料理長候補者も募集中です。まずはイベントでのお茶準備から、一緒に考えていければと思っています。一緒にお茶を楽しみませんか？



Event report

水曜“本”談義レポート



第3回水曜「本」談義 2011/6/29

「吉備人出版さんに聞く、出版社のお仕事。～営業編～」



ゲスト
吉備人出版
浜本典子さん

吉備人出版は地域に根ざした出版社で、吉備地方・岡山に暮らしている人の思い・取り組みを本にしている。浜本さんはもともと本屋で【販売】の仕事をしていて、出版社から来る営業の人を相手する側だった。吉備人出版の【営業】の仕事に就いてからは、書店員に相手をしてもらった側になった。

浜本さんの主な仕事は、本屋に本を置いてもらう書店営業。一冊の本が出来上がるまでに約1年。出来上がった本をどうやってお客様に届けるか。書店員にうまく本の内容を伝えるだけでなく、お客様

に伝わるようポップ(※)を自作(参加者はポップのスクラップ・ブックという普段お目にかかれない仕事道具を見せてもらった)。料理本を出版した時は作家の講演+デモンストレーション+本の販売というイベントを開いた。

書店員との人間関係も大切で、書店員の忙しくないところを見計らって話しかける(販売時代に営業を相手した経験が活かた)、本の紹介、本棚のどのカテゴリに置くか提案、すでに置いてもらっている本の在庫確認やホコリをはらう(モップ持参!)、「きびっと通信」という手書きの可愛らしい通信を作り新刊の案内をする・・・そうやって積み重ねても、いつも本が置いてもらえるわけではないし、注文された本が全て売れるわけではなく返品もあるらしい。

うまくいくことばかりではない。それでも「本」という共通の好きなことを通して書店員と話し、仲良くなれることを浜本さんは心から楽しんでいるようだった。書店員も営業も結局は「お客さんのために

どうすればよいのか」同じ方向を見て働く者同志なのだという。

参加者からの質問タイムは「ポップの心得」「書店員との打ち解け方」「浜本さんにとって本とは」など様々な話題が出た。

・ポップは「自分の言いたいことを書く」+「ネタばらししない、決定的なところは書かない」。読む人の立場に立てば、楽しいところは自分でさがしたいものだから。

・どの書店員さんにも「私はこの人が好きだ」と思って接する。名前を呼ぶ。

それは本も同じ。学校のクラスに

目立つ子、地味な子さまざまいるように、どのような本でもそれぞれに良いところがある。きっと読みたい人がいる。そう思って「大事にしてもらいなさい」とまるで親か先生のように本を送り出す。

・本の良さは「古くなくても死なない」ところ。書店に並ぶ新刊も、古本屋に並ぶ古本も、文字を読むだけでイメージができる。本としての働きは残っている。

これからは吉備人出版の本を通して地元に興味をもってもらい、地域で盛り上がっていききたいという浜本さん。「観光のひとつに『書店』があれば」。

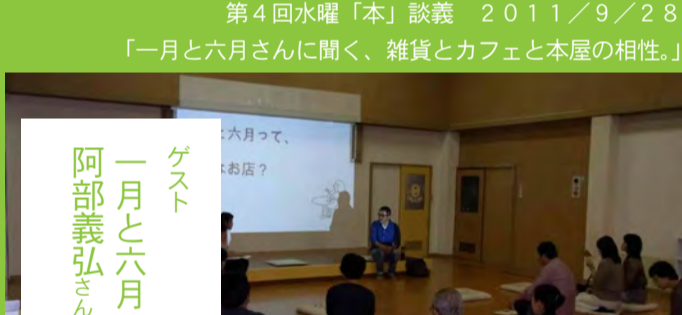
これを聞いたレポーター、「観光地ならぬ、本観光・・・特産品ならぬ特産本・・・」と夢ひろがりました。

浜本さんの、本・人と向き合う姿勢は、出版社どうこうに収まらない、一人の働く女性として学ぶものがたくさんありました。

※ポップ：商品の近くに掲示する広告、商品の説明

第4回水曜「本」談義 2011/9/28

「一月と六月さんに聞く、雑貨とカフェと本屋の相性。」



ゲスト
一月と六月
阿部義弘さん

「水曜本談義」第4回目のゲストは、境港市で「一月と六月」というお店を経営する阿部義弘さん。

カフェ+雑貨屋さん+本屋さんという本好きにとっての理想が形になったような素敵なお店を構える阿部さんは自宅に6000冊の蔵書を抱えるというビブリオマニア。

もともとはその本たちを「なんとかして！」(奥様談)からスタートしたのが現在のお店だとのこと。愛着ある本たちだから、同じ本の好きな人たちに手に取ってもらいたい。その想いのお店を始めるきっかけになったそうです。

「始めは建物があって」と語るお店は白い壁に木の柱が映えるレトロ

な内装。店内には阿部さんが県内外からセレクトしてきた雑貨、書籍が並びます。開店当初は古本のみ扱いだった書店部門もお客さんからの要望に応えるうちに新刊書も扱うようになったとか。阿部さんのセンスによって選ばれた書

籍は普通の本屋さんでは出会えない魅力溢れるラインナップになっています。

「自分たちが楽しめること」をモットーにお店を経営するという阿部さんのお話からは、とにかく「本が好き」というところがひしひしと伝わってくるようでした。

休憩を挟んで第二部はフリートーク。参加者の皆さんも本好きの方が多く、「お気に入りの一冊は？」というテーマでは「一冊にしほれない」という言葉が多く聞かれ、好きな本について話に花が咲いていました。

個性的な品揃えの「一月と六月」ですが売れ筋商品は松江のお醤油

やさんがつくっているかき餅。食べ出したらとまらなくなる美味しさだとか。季節は読書の秋。ああ私も、おかし食べ食べ漫然と本を読んでいたい。そういう気持ちにさせる一夜でした。



本レポートは記入者の意志と個性を尊重し、文体等に編集を加えておりませんので、読みにくい部分もあるかと思いますが、それぞれの個性をお楽しみいただき、お許しください。

引っ越しました。

遠足計画の新事務所地図です。
住所：鳥取県鳥取市河原町曳田 740
(旧八上保育園)

